

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム アルプス
(ユニット名)	じんちょうげの家
所在地 (県・市町村名)	鹿児島市高麗町42-12
記入者名 (管理者)	倉津 ヤス子
記入日	平成 19年 6月 15日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	当事業所の理念に、“その方がその人らしく香り高く生きるため寄り添って過ごす”こと、“ご家族、地域の方々との交わりを大切にすることを掲げており、理念に基づいた具体的内容を毎月のミーティング時に話し合っており、実現させている。	地域の方に、優先的に入居していただき、今までの生活を継続して支援していく。(現在地域住民の入居率50%)
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送りの際、理念を唱和し、毎月1回行っているミーティング時に、理念の内容を理解し、実行できているか話し合う場を設け、職員の意識を高める場となっている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議に、民生委員や地域住民の方に参加してもらい、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。また、荒田地区の老人クラブから要請があり、グループホームに関する理解を深めてもらう機会となった。	1回目に参加された民生委員の方より地域の民生委員全員に交代で運営推進会議に出席してもらおうと地域の人に伝わりやすいのではとの案が出てその方向で計画を立てている。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	グループホームで採取できる季節の野菜や、行事でつくるお赤飯、ちまきなど手作りしたものを、入居者と一緒に配りながら、隣近所の地域住民との交流を積極的に行っている。	入居者に地域の方が多く、個人的な面会のお茶飲みにお誘いし、来て頂いている。他入居者とも顔見知りになって頂き、ホームに遊びに来ていただけるように取り組む。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の運動会では、毎年招待を受けており、可能な範囲で競技にも参加している。	○ 今年、運営推進会議で民生委員からの提案で、しめ縄づくりや、門松作りに参加する予定である。また、勉強会に、民生委員や、地域住民の方に呼びかけ、交流をかねて、理念の浸透を図る。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の老人クラブの会合でグループホーム認知症についての勉強会の要請があり、理解を深めてもらうと共に相談も受けた。		今後、職員とミーティングの際に話し合う場を設け、地域の高齢者等の暮らしに役立てるようなことはないか、また、今以上に、地域住民との交流を深め、当事業所へのニーズを気軽に言ってもらえるような関係作りを行ってきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎月行われるミーティング時に、自己評価項目の一部を抜粋して、日ごろのケアの質について見つめなおす時間を設けている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の参加者よりの意見や案は、ミーティング時に職員に報告、カンファレンスを行い、家族の協力を得ながら、即実施するか長期的な計画を立てて取り組んでいる。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	適切な運営を行う為に、電話での相談、または、市担当者を訪ねて相談し、質の向上に取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	鹿児島県社会福祉士会が行っている成年後見活用講座に職員が参加し、成年後見や、地域福祉権利擁護についての知識を深め理解した後、施設内研修で発表し、職員に学習の機会を設けている。		家族の勉強会も計画を立て、必要な人には社会福祉士の資格保持者である職員が、相談・支援していく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法については、研修を受けた職員が、知識を共有し、研修で聴講した内容を資料をもとに話すなど、自主研修をしている。また、身体拘束廃止委員会で、虐待に値する内容のことが行われていないか毎月話し合いを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居する際には、キーパーソンとなる方に、契約書、重要事項説明書を細かく説明し、その都度、分からない項目については、答え説明している。また、退居することが決まった時には、ご家族と十分に話し合い、納得、同意を得た上で、退居者記録への署名捺印をもらい、解約手続きをとっている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活を共に過ごすことで、互いに信頼関係を築き、家族以上にわがままを言える雰囲気が出てきている。また、入居者が思いを職員に訴えた時には、傾聴・受容・共感し、入居者が心穏やかになれるような個別ケアを行い、その都度、内容を朝夕の申し送り時に情報を共有し、解決策を考え、実行している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族の面会があった都度、入居者の暮らしぶり、健康状態等については、話をしている。金銭管理については、預かり金が少なくなった時に、ご家族へ報告し入金した際に、出納帳に目を通し、サインをもらっている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個別面会簿を作り、意見要望を書く欄を設け、お互いに伝えやすくしている。また、家族会を兼ねたバーベキュー大会、クリスマス会で一緒に作り、食べる中で同じ立場の家族同士また職員との談笑の中で、話しやすい雰囲気を作り、苦情になる前に検討している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の会話の中で不満や意見を話せるように、コミュニケーションを図っている。2階の事務所では何でも喋ってよいことにしている為、聞き出している。	定期的な個別面談を計画して取り組む予定である。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の急な体調変化や職員の急病時、急な対応ができるような職員数を確保している。また、応援してくれる人も確保している。	数人の自由な時間を持っている人(子育てが一段落した人)を採用していく事も考えたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しい職員が勤務する最初の1週間は、三人体制を四人体制とし、職員にホームの仕事を覚えてもらいながらなるべく入居者とのコミュニケーションを図る時間を多くとり、馴染みの関係をはやく作れるようにしている。また、夜勤をする際も、慣れるまで、遅出の職員が少し残って、入居者が不安を覚えないように支援している。	馴染みの関係ができるまで夜勤を入れないようにする。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	行政機関・グループホーム協議会の研修に関しては勤務に支障のない範囲の人数を受講させ、法人内の研修の資料としても活用している。又、新聞記事や気付いた事などに関しては日々の生活の中でトレーニングしている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者職員が独自で研修等での交流でネットワークを作り、相談・勉強等を行いサービスの質の向上を図っている。また、公休を利用して他グループホームを訪問している。	他のグループホーム訪問を公休で行っているが、勤務として相互訪問し、互いのグループホームの質の向上に努めていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	不満や愚痴、希望を言いやすい環境を作り受容共感している。又、月1回のミーティング後、親睦会を兼ねてお茶・食事会を開き交流を図っている。	日帰り旅行も計画して行きたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	月1回管理者・計画作成担当者とミーティングを行い、職員個々の勤務状況の把握に努め研修など考慮している。	個別面接を行い要望など、相談できる機会を設けたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居希望の連絡があったら、施設見学をすすめ、可能な限りは、入居希望しているご本人も見学してもらうように、話している。また、他施設に入所している方には、こちらから出向き、面接をして、ご本人の気持ちをよく聴き、受け止める努力をしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居者の電話相談の時から、今すぐ入居なのか申し込みを行い様子を見ながら待つことができるのか、今の介護で苦労していること等の話を聞く。また、施設見学をすすめ、面談での相談を行っている。入居後は、面会時に日常生活の様子を報告し安心していただけるよう努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	電話での相談時、今の本人の体調、家族の介護状況等を確認し、必要なサービス機関の紹介(独自でつくっている信頼できるネットワークの施設と相談して)する等の対応もしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族一緒に見学に来て頂く、また同じ建物内にある通所サービスを利用して頂き、レクリエーション等での交流で馴染みの関係を作っている。		家族の意向で即入居の場合もあるため、見学に来て一緒にお茶を飲むことだけでも実施していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	梅干しや作りや、らっきょう漬け、あくまき作りなどの家事活動は特に、入居者を中心として行い、職員は、教えてもらいながら、感謝の気持ちを伝え、介護する立場というよりも人生の先輩として教わっていることのほうが多い。また、入居者の相談を受けたり、時には、職員も悩みを打ちて、よき相談相手となってもらうなど、お互いに支えあう関係作りができてい		昔から作っていた郷土料理、漬物作りの時は、長い間培ってきた知識を披露して頂き、優越感を味わう機会も作っている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や急変時は、連絡を密に取り、家族と職員の想いを伝え、信頼関係を築き、家族、職員が同じ立場で支えている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時、居室で一緒にお茶を飲んでいただく、また、食事をしていただく、外出の際、付き添っていただく事やグループホームを実家として家族が待ち合わせ、一緒に面会していただけるように勧めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用していたスーパーに職員と一緒にいき、顔見知りの店員さんとの会話を楽しみにしている入居者や、毎週の教会の礼拝を今まで通り続けている入居者がいる。		地域の人がお茶のみ面会にきてくれるが、こちらから出かけることがないので、時には出来かける計画も立てていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	1日の流れの中で、ホールで一緒にレクリエーション、簡単な家事、体操をする時間と気の合う入居者同士が語り合う時間、場所を作り、お互いに何でも話せ、いつでも互いの部屋を行き来している友人と認識できる働きかけをしている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居したほとんどの方の転居先が、病院であり、加療中であるため、来訪してもらうことはないが、職員が面会に行ったり、ご家族に定期的に手紙を出して近況を尋ねるなどの継続した関わりは持っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時や、普段の日常生活会話の中からも、入居者本人が、グループホームの暮らしに望むことを話すような会話をとりもったり、ご家族からも、面会時にどのような暮らしを望んでいるか、たずねて、その情報を職員で共有し、具体案を考え、実行している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会時に、ご家族との談話の中で、いままでのどのような仕事をして、どのような生活を送ってきたのか、どういう体験をして、どのような喜びを得てきたのかなど、入居者自身からも話してもらい、職員間で情報を共有しあい、その情報をもとに、入居者が自信と張りのある生活をおくれるよう支援している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人の暮らしの中で、心身の変化や状態と全体の中での個として受け止め、職員がそれぞれ把握できるよう、小さな事でも見逃さないよう、朝夕のミーティングなどで報告し、職員全体で理解している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時の情報や暮らしの中での変化、それに伴う本人の希望など、家族、関係者と話し合い、その都度対応し、介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に関わらず、入居者の容態やADLの変化に合わせて、その都度家族や、職員とカンファレンスを開き、介護計画の見直し、作成変更を行い、実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った介護記録と、入居者の状態変化、職員の気づきなども記録に残し、朝夕の申し送りで情報を共有している。また、個別に介護計画書と記録を照らし合わせながら評価し、日々のケアに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体施設への定期受診、リハビリ等の送迎は、グループホーム職員で行い、他科受診の際には、基本的に家族に通院介助をお願いしているが、状況に応じては、日勤帯の職員の数を調整し、可能な限り家族の要望に応じている。		
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員との交流は頻繁に図っている。また、ボランティアの受け入れは随時行っており、今年は、サマーボランティアの受け入れを予定している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居前のケアマネジャーやソーシャルワーカーと連絡を取り合い、地域のお茶のみ友達との交流、行きつけの美容室利用等、ボランティア的なサービスを利用する支援をしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員に呼びかけ、可能な範囲で参加してもらうようお願いしている。以前は、在宅介護支援センターの職員と連携を密にとり、介護上の相談や、オムツ申請などの協力をもらっていた。	○	地域包括支援センターとの関係作りはまだできていないため、今後、困難事例や事業所内で解決できない問題については、地域包括支援センターと協働しながら、本人本位の支援をしていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の要望を聞き、入居者によっては、グループホーム利用前からのかかりつけ医に定期受診している方もいる。また、専門医の往診をうけている入居者も居る。入居者の症状によっては、担当医から専門医院への他科受診もすすめている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>隣接に内科があり、指示や助言を受けているが、それでも困難な時は、家族・主治医と話し合い、専門医に相談、受診を行っている。</p>	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>看護職員を配置しており、毎日入居者の健康管理をチェックし、状態変化時は、医療機関へ連絡を行うようにしている。</p>	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院時は、情報提供書を提出し、職員が出向き、見舞うように心掛けている。また、医師、家族と話し合い、本人の回復に応じて退院の検討も行っている。</p>	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化した入居者に関しては、担当医、家族、職員でカンファレンスを開き、家族の希望に添えるように介護計画を立て、取り組んでいる。</p>	
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>本人や家族の意向を聞き、家族・医師・職員と話し合い、利用者が安心して、家族へもその都度、状況を報告し、急変した時は、すぐ対応できるよう常日頃、病院へ連絡し対応できるようにしている。</p>	
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>軽度の認知症のある入居者が、嚥下困難により他医療機関に入院が決まった際、本人が、グループホームでの生活を強く希望し、納得を得られなかったため、長生きをしたいという本人の願いをかなえるためには、口から栄養をとることが大切であり、嚥下訓練をすればますます元気を取り戻し、グループホームでの生活に戻ることも可能であるということを、時間をかけてゆっくりと説明を行って移送に至った。家族とも継続して定期的な連絡を取り、訃報時も職員全員が通夜や葬式に参列し、家族の心理的ケアも行っている。</p>	<p>移送先については、ご家族の希望を聞いた上で、グループホームと連携をとっている信頼のおける施設や、医療機関を紹介している。また、退居後には、面会に行き、関わりを持ちながら、なじみの関係を継続することで、住み替えによるダメージを防いでいる。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室での時間帯を、その人らしく持てるようにゆっくりとした空気を作り、その時の状態によって声かけをし見守る。記録は、職員室で職員が書き個人情報の流出を防いでいる。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	常に入居者との会話を心掛け、その表情に注意を払い、何でも言える様な雰囲気を作っている。また、思いが先に立ち、言葉で表現できない時には、代弁し入居者自身の意思決定がスムーズに行えるよう支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の体調や気持ちの変化等に気を配り、穏やかに楽しく過ごしていただける様に、入居者全体の様子を見ながら希望に近づけるよう考え、支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入居者自身の希望、又は昔から利用していた店等に行ける様、ご家族の協力を得ながら行っている。又、希望者があつた日は、理容・美容室の方から出張して頂き、その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼・夜食事の準備時、入居者が自発的に配膳・下膳などの家事活動に参加できるような環境作りを行っている。入居者自身の嚥下状態に合わせた、食事形態をとっている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	10時、15時に、入居者の食べたいおやつを提供しているが、その他にも嗜好品がほしい入居者に関しては、近くのスーパーと一緒に行き、たくさんの商品の中から自分で選択する楽しみを味わって買い物している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	食前・食後時などは、トイレの声かけをさりげなく行っている。普段、オムツ使用の方も、排泄の訴えがあった際には、トイレ案内し、腹部マッサージを行うなどして、日中はできるだけトイレで排泄できるよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の体調に応じて、希望を重視している。また入浴時に、歌を歌ったり昔話をする等してコミュニケーションを図り、リラックスして入浴できるよう支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間安眠できる様、日中は散歩や体操・家事活動などに参加して頂き、生活のリズムを作って頂く。また、入居者の体調に合わせて、昼食後に30分から1時間の休息を案内するよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	身体機能の格差はあるがそれぞれの趣味や、得意なこと、好きなことを生かして、できる範囲の中で、家事活動や、農作業、日めくりカレンダーの係り、裁縫など、入居者一人一人が役割をもち、お互いを認め合って楽しく共同生活を送れるよう支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	毎週日曜日に協会へ礼拝に行く入居者がおり、献金をするために、自由に使えるお金をご家族から渡されており、本人の自由な意思で使っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所にお寺や公園があり、天気の良い時は積極的に散歩に出かけるよう努めている。また、入居者自身が玄関周辺を行き来し不安を訴える際は、さりげなく一緒に外出し気分転換を図るなど入居者の、その日の気分や体調によって外出支援を行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間行事で、そうめん流しやコスモス見学などを組んでおり、その都度、ご家族の方への参加の案内を行っている。また、入居者より外出の希望があった場合は、ご家族と相談をしてできる限り本人の希望に沿える様、支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方にいるご家族からの電話の取り次ぎを定期的に行っている。また、グループホームで発行している新聞と一緒に入居者自身が書いた手紙を添えてご家族に郵送し、入居者との関わりをとりもっている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間を定めていないため、ご家族の都合に合わせて、実家に立ち寄る感覚で、気軽に訪問している。面会も、ご家族だけでなく、友人、知人の面会もお茶のみ感覚で、頻繁に面会がある。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止推進研修には、職員のほとんどが参加しており、介護保険指定基準において禁止の対象となる具体的な行為を職員が把握し、毎月のミーティングで、身体拘束廃止委員が中心となって、自ホームにおいて拘束となる行為が行われていないか自己点検をしながら、日々のケアに生かしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関、非常口、入居者が自由にホーム内外を行き来できるようすべて開放している。無断外出しようとする入居者が居たときには、気配を感じ取りさりげなく声かけし、一緒に散歩しながら気分転換を図っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は、ほとんどの入居者がホールで過ごしているため、職員は、いつも寄り添って一緒に家事をしたり、談話をしている。また、記録等も、入居者の側で行い、見守りをしている。夜間帯は、定期的に巡視を行い、病状によっては、頻繁に訪室し入居者の安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	日常的に使うもの、所持しているものも場合によっては、危険なものになることを考えながら、入居者個人の気持ちや状態を確認し、日々の様子など職員間でも話し合い検討している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人一人の状態を十分に理解し、予測できる危険を把握し、見守りをしている。ヒヤリハットを記録し、入居者の状態変化に応じて予想される事故について検討し、未然に防ぐよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防士を講師に救急救命法を全員で学んだ。また、母体となる病院の医師、看護師より転等時、骨折時等の応急手当の指導を受けている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年二回の消防署の指導による訓練を実施している。また、職員だけの訓練も行っている。		次回の運営推進会議で地域の方に協力をお願いする。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時と変化のあった時、家族職員で話し合いリスクのある中でも日常生活を快適に過ごせるよう支援している。体調の急変時は、医師に報告し、指示を仰ぎ家族にも連絡を取っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックは毎日行い、食事摂取量、排泄状況等、朝夕の申し送りでも共有する。また、気付いた事は、口頭で知らせることと連絡帳に記録し、職員全員で共有している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院からもらっている服薬一覧表を綴っている。また、事務所内に服薬状況を貼り、職員一人一人が把握、理解するよう努めている。症状変化については、お互いに情報交換・確認し、定期受診時、医師に報告している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	入居者、職員共に排便の大切さを語りながら、体操・散歩を行っている。また、食事面では、毎日、ヨーグルトと繊維質の野菜を摂取するよう努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床時・食後・眠る前と1日3回の義歯洗浄とうがいを、その人の状態に合わせて、自立・半介助・全介助で徹底して行う様努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後の食事摂取量の把握(健康記録に毎回記載し)、必要に応じて水分量の把握を行い、また、毎月体重測定を行い、定期的に主治医に報告、指導を受け、職員全員が入居者の状態把握に努めている。時々、同じ法人の管理栄養士にメニューをチェックしてもらっている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防のマニュアルを作成し、行政から文書での指導や注意があった際には、全員で感染予防に関する対策を考えている。また、基本的なうがい・手洗いの他に手拭きにはペーパータオルを使用している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具は、ハイター消毒後、食器乾燥機で管理し、食材は、毎日食事当番で買い物を行い、保存品にも消費期限の記入を行っている。冷蔵庫・冷凍庫の点検は、毎週夜勤者が行い必要に応じて廃棄処分している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関にはベンチを置き、入居者だけではなく、近所の人や面会の方がゆっくりくつろげる空間を作っている。また、入り口には、季節の折り紙を飾り、目で楽しんでもらえるようなスペースを作っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日常生活の中で、入居者一人一人の自尊心に配慮し、できること、したいことを把握し家事活動や農作業などの生活リハビリ、レクリエーションを通して五感を刺激し、季節の野の花などを飾る旬の物を食卓にあげること季節を感じ、入居者が自分の住みかだと意識を高めるような工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにおいては仕切りはないものの、入居者同士が交流するときには、テーブルで談話したり、一人になりたいときには、テレビの前のソファーに移動し、テレビ観賞や、新聞を読むなど、自然とそれぞれの生活リズムができています。また、入居者同士が互いに訪室し合うなど自由に行き来している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたダンスや棚、テレビ等を持ち込んで、自宅で過ごしていた環境を作りながら、本人がこれまでの生活と変わりなく落ち着いて過ごすことができるよう、使い慣れた家具や、昔馴染みの雑貨やアルバムなどを持ち込んでいる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	室内空調で、24時間換気を行っている上に、定期的に戸を開け、空気の入替えもしている。また、室温計、湿度計を確認しながら、外気温との差を作らないように適度に温度調節を心がけている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の可動域に合わせて、手すりやスロープを設置しているが、なるべく残存能力を生かしながら自力でホーム内を動きまわれるように環境作りをしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	色々な家事活動や、レクリエーションを通して、得意なこと、不得意なこと、したいこと、したくないことなどを見つけ、普段の生活を送る中で、自身と張りのある生活を送れるよう工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	屋上には、菜園があり、入居者を中心としながら、季節の野菜を育てたり、収穫をしながら、季節感を味わっている。また、農業をしていた入居者が多いことから、菜園を中心としたレクリエーションは、外気浴を楽しむだけではなく生きがい作りの場となっている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input checked="" type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

鹿児島市の中心部に位置していることから、交通の便利がよく、ご家族の面会も多い。また、近くには甲突川公園があり、自然とも触れ合える快適な環境のもとで生活している。屋上には菜園があり、入居者と職員が、畑を耕し、苗を植え、水やり、収穫までを日頃のレクリエーション等で行い、農業をしていた入居者が多いことから、自然と体が動き、自信に満ち溢れた表情で生き生きと生活できる空間となっている。また、毎月1回、専門の講師による音楽療法で、昔懐かしい歌謡曲や、季節の曲を歌いながら体を動かすなどの場を設けている。

アルプスの理念でもある研修を運営者の計らいもあり、職員には研修に参加する場を提供し、自己研鑽を続けて、日頃のケアの質向上に励んでいる。